

(1) 目標として設定した項目	取組の結果〔昨年度数値〕
1 学校経営・組織体制 ① 学校経営計画に基づき、各教職員が自身の役割や目標達成のための具体的な手立てを自己申告書に記載し、校長面接等を通じて共有する。 ② 分掌主任や事業担当者が的確に進行管理を行い、業務を効率的に遂行する。 ③ 学校評価や授業評価アンケートなどを活用し、的確に現状と課題を把握するとともに、学校運営の一層の改善を推進する。 ④ 学校経営計画の目標の達成に向けた各分掌等の評価を年3回実施し、現状と課題、達成状況等について学校運営連絡協議会などで報告する。また、学校運営連絡協議会の協議委員による提言や助言を、学校改善に活用していく。 【学校評価：入学満足度(生徒)95%〔93%〕】 ⑤ <u>学級減に伴う1クラス人数の増加に対応するため、内部努力により1学年2クラスの体制を堅持する。</u> ⑥ 将来構想委員会を定期的に開催し、町田高校定時制課程の将来ビジョンを検討する。 ⑦ 学事、徴収事務の定期的な点検・確認を実施（執行状況の報告月1回）する。 ⑧ 年3回の服務事故防止研修等により個人情報の管理や体罰等の防止対策など、服務事故の未然防止に努める 【学校評価：体罰防止の取組(生徒)80%〔76%〕】 ⑨ 業務点検、校内研修等を行うことにより、重大事故の発生を防止し、職員のコンプライアンスに係る意識を啓発する。また、校内におけるサービスの厳正を図り、服務事故の根絶を目指す。 ⑩ 会議の時間を短縮するため、会議時間の上限を設定するとともに資料の事前配布やICTの効率的な活用に努める。	1 学校経営・組織体制 【A】 学校経営計画に基づき、組織的な取組を行ってきた。目標達成に向けた各分掌等の現状と課題について、学校運営連絡協議会などで年3回報告した。 学校評価における「入学満足度」「通学への目的意識」「学校生活の有益性」の評価は、生徒・保護者ともに高かった。学校評価アンケートの保護者回収率を高めることは引き続き課題である。 学級減に伴い、本年度は6クラス編成（2年と4年が2クラス、1年と3年が1クラス）であったが、特に新入生では30名を超える入学者数であり、校内努力により全学年2クラス編成を実施した。しかし学級減の進行に伴い教員定数も減少するため、次年度以降継続することは困難な状況である。 将来構想委員会を定期的に開催し、日本語指導やクラス編成について検討を重ねた。 服務事故防止研修を3回、経営企画室の業務点検等を適切に実施した。 ICTを活用し、企画調整会議や職員会議はペーパーレスで実施した。 【数値実績】 ア 学校運営連絡協議会の協議委員の「学校が良くなった（そう思う・多少そう思う）」という評価 80.0%〔62.5%〕 イ 学校評価の肯定的評価の割合 「入学満足度」 生徒 89%〔93%〕、保護者 97%〔96%〕 「通学への目的意識」 生徒 86%〔86%〕、保護者 90%〔93%〕 「学校生活の有益性」 生徒 80%〔86%〕、保護者 95%〔97%〕 「体罰・暴言のない指導」 生徒 75%《わからない13%》〔76%《18%》〕、保護者 85%《12%》〔89%《12%》〕、教員 100%〔100%〕 「ライフワークバランスの取組」 教員 100%〔100%〕
2 学習指導 ① 生徒による授業評価（年2回）や学校評価の結果に基づき、授業改善に取り組む。 【学校評価：わかりやすい授業(生徒)90%〔90%〕】 【学校評価：授業満足度(生徒)75%〔74%〕】 ② 観点別評価を適正に行う等、新学習指導要領への移行を円滑に推進する。 ③ スマートスクール端末(iPad)を活用した授業展	2 学習指導 【A】 生徒による授業アンケートを年間2回、すべての生徒を対象に全科目で実施した。「授業満足度」は87%と昨年以上の数値であった。教科指導の充実の教員の自己評価は100%となり、教職員各々が授業の工夫を凝らしている証左である。 全教員の82%がiPadを活用した授業を展開しており、生徒も上手に活用できている。

開を推進する。 ④ 教員の相互授業参観（年 3 回以上）や他校の授業見学等などにより、教員の授業力向上を図る。 ⑤ 「3 年併修制度」を利用する生徒のために、高卒認定試験に向けた講習会や個別指導を行うなど、生徒の学習を支援する。 ⑥ 英検・漢検・ワープロ検定・サービス接遇検定等、資格取得のための指導を充実させる。 【補習・講習等 85 時間、150 名〔85 時間、148 名〕】 【各種検定受検者 50 名〔23 名〕】 ⑦ 桜美林大学、学芸大学等と連携し、日本語指導を必要とする生徒を対象とする個別指導を実施する。講義中心・板書中心の一斉授業から、ICT を活用し、アクティブ・ラーニングの手法などを取り入れた双方向授業への転換を図る。	日本語指導に関する「特別の教育課程」を設定、桜美林大学・学芸大学等の協力を得て個別指導を実施し、希望進路の実現等の高い効果があった。 長期休業中の講習では、生徒のニーズに合わせて履歴書や小論文の書き方講座を取り入れた結果、のべ受講人数は 218 名となり、昨年度に比べて劇的に増加した。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的評価の割合 「授業満足度」 生徒 87%〔85%〕、保護者 78%〔92%〕 イ「教科指導の充実」教員 100%〔93%〕 ウ 「補習・講習時間」94 時間〔88 時間〕 218 名〔92 名〕
3 進路指導 ① 各学年進路担当者を中心に早期から将来の目的意識を持たせて適切な職業選択をさせる。そして、進路決定率を上昇させる。 【進路決定率 90%〔87%〕】 【学校評価：適切な進路指導（生徒）70%〔61%〕】 【学校評価：学業と仕事の両立（生徒）70%〔60%〕】 ② 進学希望者の経済的な準備や、就職希望者に対する勤労観・職業観の育成を目指して在学中の健全な就労、アルバイトを奨励する 外部人材を活用した社会的・職業的自立支援教育プログラムを全学年 1 回以上実施する。ハローワークによる進路面接会を 4 学年の 10 月に実施する。	3 進路指導 【A】 ハローワークによる進路面接会を 4 学年の 7 月に行った。その他外部人材による進路ガイダンス等を適宜実施した。 学校評価における「適切な進路指導」の評価は、生徒保護者ともやや下降しているが、「有効な補習・補講」については、生徒保護者とも大きく上昇しており、教員の評価も高い。 進路決定率に関しては担任及び進路指導部が力を入れた結果、+30 ポイントという高い結果を挙げることができた。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的評価の割合 「適切な進路指導」 生徒 73%〔75%〕、保護者 69%〔74%〕、教員 92%〔100%〕 「有効な補習・補講」 生徒 72%〔56%〕、保護者 73%〔58%〕、教員 92%〔77%〕 イ 進路決定率 88.0%〔58.0%〕 エ 補習・講習参加者 218 人〔92 人〕
4 生活指導 ① 自立支援担当と SC・YSW、養護教諭との情報共有と、担任との連携を深め、生徒の自立する力を向上させる。 【中途退学防止に向けた総合的なプログラム実施 20 回〔20 回〕】 ② 担任による面接指導を年 4 回（4 月、6 月、9 月、11 月）実施する。また、面談を通じて信頼関係を構築し、生徒の変化や状況を的確に把握する。 【中途退学者数 5 名〔5 名〕】 【学校評価：面談指導有効活用（生徒）70%〔69%〕】 ③ HR 活動、学年集会や全校集会等を通じて、「規範意識や公共心を育成」「思いやりの心といじめを許さない雰囲気の醸成」「命の教育の推進」に	4 生活指導 【B】 中途退学者の数は 11 名と昨年に比べて増加した。入学者の増加に伴い、複雑な事情を抱える生徒も多くなったとはいえ、退学者を減少させることは喫緊の課題である。特別指導に当たる指導は 2 件に抑えられた。 「面談週間の有効活用」の評価は、比較的高い。「登下校のマナー」の評価は、全日制の生徒に対する評価が多く含まれていた。 いじめアンケートは各学年 3 回実施した。生徒面談指導を年間 4 回以上実施した。 【数値実績】

取り組む。(4月,7月,12月,1月,3月) ④ 基本的な生活習慣を確立させるとともに、「遅刻指導」「チャイム始業・チャイム終業」「挨拶の励行」を徹底する。 ⑤ いじめのアンケートを年3回実施し、早期発見に努める。いじめが認知された場合には、学校サポートチームと連携し、対応に当たる。 ⑥ 人権意識を高め、被害者・加害者とならないよう指導する。また、「SNS家庭ルール」作成に向けた保護者への啓発を行う。	ア 中途退学者数 11名〔4名〕 イ 学校評価の肯定的評価の割合 「面談週間の有効活用」 生徒 83%〔15%〕〔72%〔15%〕〕、保護者 76〔20〕%〔77%〕、教員 84%〔92%〕 「登下校のマナー」 地域 43%〔43%〕〔34%〔46%〕〕
5 健康づくり等 ① コンディションレポートを活用することで、登校時やホームルームにおいて、生徒の健康状態などの様子を把握し、日常的に声掛けを行う。 ② 学校における自殺予防教育を推進させるため、「SOSの出し方に関する教育」を推進する。 ③ スクールカウンセラーと連携し、特別な支援が必要な生徒に対する支援を行う。また、1学年を対象とした全員面接を4月中に実施する。 ④ ユースソーシャルワーカーと連携し、経済的に困難な状況にある生徒の学力と進路保障に努める。 【学校評価：SC・YSWに関する周知理解 85%〔81%〕】 ⑤ 専門医派遣事業を活用した生徒情報の共有会を年4回実施する。また、講師を招聘した教育相談研修会を年1回実施する。 ⑥ NPO法人による社会的・職業的自立支援教育プログラムを実施し、居場所づくり、仲間づくりを進め、コミュニケーションスキルや自己の適性を考える機会とする。 【自立支援教育連絡会の開催年間10回〔10回〕】 ⑦ 発達障害のある生徒に対する支援方法について、年間1回程度、校内研修を実施する。 ⑧ 体育の授業や特別活動、部活動などを通じて、基礎体力の向上に向けて計画的に取り組む。 ⑨ 生徒ががんについて正しく理解することができるよう、外部講師を招聘する。 ⑩ 桜美林大学との連携により、「校内居場所カフェ」を設置し大学生との交流を実施する。 ⑪ 清掃日を週1回設定し、環境美化に取り組ませる。また、教科「人間と社会」の一環として、近隣の清掃活動を実施する。 ⑫ 避難訓練、救命講習などの体験的な訓練及び防災ブック「東京防災」、防災ノート、防災講演会など通して、自助・共助の精神を醸成する。また、「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を年間1回以上行う。 ⑬ 保健講話（7月、他1回）、交通安全教室（7月）、セーフティ教室（12月）を実施する。	5 健康づくり等 【A】 コンディションレポートについて、各学期初めに活用強化期間を設定したが、生徒の活用状況はあまり高くはない。 SC及びYSWによる新入生や転入生を対象とした全員面接を適切に実施した。 自立支援会議を含む、特別支援教育に関する委員会を年間30回開催した。また、特別な支援が必要な生徒の進路指導をテーマとした校内研修を実施した。その他、弁護士を講師として招き「ストーカー・DV被害者への対応」に関する研修、専門医派遣による産婦人科の講演を受講した。 学校評価における「SC・YSWに関する周知理解」の評価は、生徒では90%と昨年度を上回り、保護者の認識も上昇している。「SC・YSWの活用」の教員数値は91%と高く、教員が必要性を重視している結果となった。また、「学校施設周辺の清掃状況」の地域の評価は82%と年々上昇している。 いじめアンケートは各学年3回実施した。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的評価の割合 「SC・YSWに関する周知理解」 生徒 90%〔85%〕、保護者 78%〔65%〕 「SC・YSWの活用」 教員 91%〔100%〕 「学校施設周辺の清掃状況」 地域 82%〔75%〕 イ 特別支援教育に関する委員会開催 30回〔30回〕

6 特別活動・部活動 ① 全教員が部活動顧問を担当する、また部活動活性化に向けて、活動時間の設定を工夫する。 ② 部活動の入部を奨励し、達成感や自ら向上する喜びを感じ、自分に自信をもたせる。 【部活動参加率 60% [56%]】 ③ 学校行事を通して折れない心と体の鍛錬を推進する。 【学校評価：学校行事充実度(生徒)80%以上 [70%]】 【校外学習への参加率 80% [76%]】 ④ 生徒会が中心となり、定時制祭の準備を計画的に進め、生徒の主体性を育み、達成感、連帯感、学校への満足感を実感させる。 【定時制祭への参加率 90% [89.1%]】	6 特別活動・部活動 【B】 新型コロナウイルスによる教育活動の制限がなくなり、すべての行事が通常通りに実施できた。校外学習、定時制祭やスポーツ大会、生徒会行事などの行事も計画通りに実施することができ、1月には1学年が宿泊行事を実施した。加えて、「子供を笑顔にするプロジェクト事業」にも参加し劇団四季の「美女と野獣」を鑑賞した。 桜美林大学との連携（定時制祭等の学校行事並びに総合的な探究の時間）も生徒の意欲を高め、達成感を得るための原動力の一つとなっている。 部活動加入率は 49.0%と横ばいであるが、バドミントン部では4年連続での全国大会出場など、対外的な活動の実績も挙げられた。 学校評価における「学校行事の充実度」の評価は、生徒保護者及び教員すべてで昨年以上の数値となった。しかし定時制祭参加率が下降傾向にあり、今後生徒数及び教員数の減少を考えると実施方法に検討が必要である。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的評価の割合 「学校行事の充実度」 生徒 86% [78%]、保護者 86% [92%]、教員 96% [93%] 「文化祭（定時制祭）の参観」 地域 3% [16%] イ 部活動加入率 49.0% [50.5%] 校外活動参加率 69% [57%] 定時制祭参加率 63.6% [70.0%]
7 募集・広報活動 ① 夏季休業中等を活用し、全教職員で中学校訪問等を実施する。（一人2校目安） ② Web ページに加え、Twitter、YouTube 等様々なツールを通じて情報を発信する。 【Web ページ等の更新回数 120 回 [72 回]】 ③ 学校見学会・説明会の開催時期や時間帯、回数や周知方法を工夫し、実施する。 ④ 定時制祭における地域との交流、防災訓練への町内会の皆様との交流に取り組む。 ⑤ 町田警察署や町田消防署をはじめ関係諸機関と情報交換を行い、適切な生徒指導を行う。	7 募集・広報活動 【B】 Web ページの更新 128 回 [130 回] 今年度はホームページをリニューアルし、全定で共通感のあるものとなった。X での発信も適宜行い、町定の周知に努めた。 近隣の中学校訪問や町田市の公共施設での学校紹介など、学校の取組や生徒の様子など広く発信できた。 1次募集の応募倍率は 1.0 倍であったが、欠席者が 1 名出たため 2 次募集を実施した。2 次募集の応募はなかったため、今後 3 次募集を行うことになる。 【数値実績】 ア 学校評価の肯定的評価の割合 「公式 Twitter や公式 YouTube の認知度」 地域 6% [4%] 「災害時の緊急避難場所としての認知度」 地域 91% [88%]